

第1回食品安全推進協議会の意見への対応について

資料4

事項	項目	発言者	意見	対応
成果指標	有症者50人以上の集団食中毒発生件数	原田委員	成果指標は県行政側の裁量でコントロールできるものの方が良いのではないか。	本プランは行政だけでなく、生産者、事業者、消費者それぞれが安全・安心に向けた取組を実施することで、達成できる目標を設定すべきと考える。また、県の総合的なビジョンにおいてもアウトカム指標として用いていることから、整合性を図るため、本プランにおいてもアウトカム指標を設けたい。
		細野委員	KPIについて、近年国際的にも工程管理に重点が置かれるようになってきており、工程を評価できるものとすべきではないか。管理を行うことが主流となっており、工程を評価できる目標とすべきではないか。	各基本施策の中で、取組の参考指標を設定し、工程管理の評価も行っていく。
		山内委員	「有症者50人以上」「過去5年平均」とするのは妥当か。	ある程度の規模の食中毒発生件数で評価すべきと考えており、また、単年度では数値のバラツキが大きくなるため、5年平均としたい。
	回収着手報告書提出までの所要日数	原田委員	いつを期首にする等定義を明確にし、運用可能なものとして欲しい。	事業者が探知してから行政に提出するまでの所要時間とする。(資料6・19ページ)
		山内委員	一般の県民にわかりやすいものか。	「回収着手報告書」について記載する。(資料5・6ページ)
注視する指標	危機管理マニュアル整備施設数	原田委員	マニュアルはひな型を示し、各事業者記入できるような様式を用意して欲しい。	マニュアルのひな型(例)をホームページに掲載する。(資料6・21ページ)
	食品衛生講習会開催数 農薬危害防止講習会開催数	原田委員	講習会はコロナの影響で開催が難しい状況であり、オンラインでの講習を進めて欲しい。	「新型コロナウイルス感染症による影響」について記載する。(資料5・11ページ)
	表示講習会受講者数	原田委員	管理者は受講済み。業務に実際に携わる人が受講できるよう、オンラインで受講できるようにして欲しい。	
全体	SDGs	原田委員	食品衛生法改正の趣旨の反映はもちろんのこと、SDGsの理念を反映させることも必要と考える。	「食品ロスの削減」について記載する。(資料5・10ページ)
	ゲノム編集食品	川本委員	消費者にとって、ゲノム編集食品などは不安に思っている人が多いと思うので、流通するようなことがあればプランにも反映させて欲しい。	内容について「リスクミ」の社会情勢に記載する。(資料6・31ページ)
	ベネフィットコミュニケーション	高田委員	リスクコミュニケーションだけでなく、ベネフィットコミュニケーションという消費者の利益から考えたあり方も重要である。	